



不思議な出来事

この巡礼記を書いて
いると、妻が「こんなも
のが出て来たよ」と周
囲が黄色に変色した紙
を持って来た。

昭和四十九年十二月
二十四日号の徳山カト
リック教会報で、私の書
いたルルド巡礼記が出
ていた。

「妻のお腹の中に原
因不明の腫瘍ができ、

それを摘出する大手
術。十八針、四時間近く

の手術時間、開腹した
ら予想外の所に腫瘍が
あったため手術は難航。
途中で手術室に入れら
れ、立ち会わされた。

外は雪が降っていた。
意識を取り戻した妻を
励ますつもりで「元氣
になったら、貴女のクリ
スチャン・ネームのルル

ドに連れて行ってあげ
るからね」と言ったそう
である。(原文に点がつ
けてある)

奇跡的に元氣になっ
た妻は、ほかのことは全
然憶えてないのに、ルル
ドのことだけはよく憶
えていた。

あれから三年、こん
なに早くルルド巡礼が
実現するとは」とある。

実はこの三十三年前
の巡礼で二つの不思議
な出来事が起きた。

学生時代から吸って
いたタバコを吸わなくな
ったことと長男を授
かったことである。

洞くつからわき出る
霊水は、たくさんの人
が飲めるように聖堂と
洞くつの間の傾斜地に
かなりの数の蛇口があ
り、私たちも飲んだ。

さらにこの霊水で体
を清める浴室もある。
シーズン中は長い行列
ができ、浴室前のベンチ
に座り、ロザリオを使っ

て聖母マリアの
祈りを唱えなが
ら待つ。

自分の順番が
来ると霊水の入
った浴槽に腰ま
で入り、差し出
された小さなマ
リア像に口づけ
し、聖母マリアの
祈りを唱える。
そして二人のポ
ラントイアが浴
槽の両側から腕
をつかみ、後ろに
頭だけ残してド
ボンと体を霊水

「奇跡の聖地ルルド」から

年、長男を出産し
たのである。さらに
幼稚園児の時、来
日したヨハネ・ウ
ロ二世に抱き上げ
られた。

妻は「この子は
信仰の子、将来司
祭に」と期待してい
たようだが、今は
平凡な中学校の教
師、教会にも行って
いない。

沈めるのである。
その水浴以来、別に
タバコがやめられるよ
うに祈ったわけでもな
いの十五年間も吸っ
ていたタバコを吸わな
くなった。

もう一つの長男の出
産。その七年前、妻が二
女を身ごもった時、医
師からは母体安全のた
めあきらめるように言
われたが、妻は忠告に
従わなかった。幸い母子
とも無事であったが、そ
の後、前記の大手術も
あり、子供はあきらめ
ていた。

ところが、巡礼の翌
日、前山口放送取締役ラ
ジオ局長

ともあれ妻の霊名マ
リアルルドに始まった
ルルドとのかかわり、こ
こでいただいた恩寵に
心からの賛美と感謝を
捧げた。

（前山口放送取締役ラ
ジオ局長）



ピレネーの雪解け水が流れるガブ川＝手前の大聖堂の下に地下聖堂（実際は一階）、向こうはロザリオ大聖堂



未明の霊水飲み場
（私たち以外だれもいなかった）